

# 文書館だより

TEL027 (221)2346

URL <http://www.archives.pref.gunma.jp>

第60号

平成30年3月



上野国緑柱郡中大塚村絵図（部分、天保9年）P8117 No.20065  
\*縦63.7cm×横160.3cm、彩色

平成30年3月10日より、当館では「新規公開文書展2018」を開催中です（7月8日まで）。上の絵図は、天保9（1838）年4月の幕府巡見使の来訪に際し作成された緑柱郡中大塚村（現藤岡市）の絵図の写しです。向かって下が北、上が南、左が東、右が西という江戸時代の絵図に多い形式で描かれています。

当時同村は、旗本鳥居氏領（799石8斗2升4合）と旗本弓気多氏領（261石8升）の二給支配でした。道（朱色）、水（川・用水、濃紺色）、堺（村境、黒色）、鳥居領畑（橙色）、鳥居領田（薄黒色）、弓気多領畑（灰色）、弓気多領田（薄黄色）、鳥居領御除地（免税地、白色）と色分けされています。

集落は、藤岡町隣接の東部、上大塚村隣接の南部・南西部に集中しています。村北東部（中央部少し左下）の大屋根の建物は干手寺で、絵図右下の林には平地神社と稲荷塚（平地神社古墳）も描かれています。村南東部（左上）をかすめて通っている太い朱筋は、脇往還藤岡・吉井宿道です。これらの寺社や道筋は、安政5（1858）年「村差出明細帳」（No.196）にも記われています。

この絵図は、2階閲覧室の大型絵図専用長机で原本を御覧いただけます。

平成29年度テーマ展示2「二つの上野国絵図―寛文と元禄―」の開催報告

平成29年10月14日より平成30年2月25日まで、標記のテーマ展示を開催しました。当館所蔵の「元禄十五年上野国絵図」(P8710)と近年確認された前橋市立図書館所蔵「寛文上野国絵図」を比較・考察し、関連する古文書「國圖要録」(PF8804 熊谷家文書)なども展示しました。

展示項目は、①国絵図とは何か、②寛文上野国絵図と「國圖要録」、③寛文国絵図と元禄国絵図、④寛文と元禄の国境比較とし、前期・後期で計39点の古文書や絵図を展示しました。③では、伊勢崎陣屋・伊勢崎町周辺地域、大胡古城とその周辺地域、富岡と七日市・小幡地域(藩陣屋記載の有無)などを比較しました。④では、甘楽郡山中領(現多野郡)の上武国境、利根川沿岸上武国境(福島村・古戸村)、邑楽郡渡良瀬川沿岸地域の上州・野州国境、山田郡桐生川沿岸地域の上州・野州国境(画像)を比較しました。

来館者アンケートには、「現在の地図も展示されていて対比しやすかった」「補足説明が充実している」「解説の文字が大きくわかりやすい」などの御感想が寄せられました。今回は、埼玉県な

ど県外来館者の割合が大幅に増加し、計1,579名の方に御覧いただきました。



元禄十五年上野国絵図  
(山田郡桐生川沿岸地域部分、P8710 No1)

開館記念日行事 「絵図でみる上野国と武蔵国」開催報告

平成29年10月21日・同22日の2日間、標記の開館記念日行事を開催しました。今回は、①3階第2・第3研修室で上野国絵図・武蔵国絵図・天明三年浅間山噴火被害絵図などの原本史料展示・同展解説会(写真)、3階第1研修室で元禄十五年上野国絵図フロアマットの展示・同展解説会、②1階ロビー・展示室でテーマ展示2「二つの上野国絵図―寛文と元禄―」を同時開催しました。当日は、前橋市内在住の方を中心に、20歳代から80歳代までの幅広い年齢層

の方に御来館いただき、2日間で計56名を数えました。また、昨年よりも、当館ホームページ広報で当行事を知った人の割合が増加しました。

来場者アンケートによると、元禄十五年上野国絵図フロアマット展示については、「実物大のものを見ることで、実感できてよかった」、「触りながら確認できてよかった」、「知っている地名を見て、昔からあった所なんだと興味をもちました」、「先生のお話がとても面白く、また参考になったので、楽しめました」などの御感想が寄せられました。

原本史料展について、来館者が最も興味をもった史料は、「上野国全図」(天保11年、福島英一家文書)でした。続いて「天明三年浅間山噴火被害絵図」(狩野一郎家文書)でした。御来館いただき、ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。



原本史料展示解説会の様子

平成29年12月16日(土)、テーマ展示2関連の「ぐんま史料講座2」を開催しました。講師には、東京大学史料編纂所教授の佐藤孝之氏をお迎えし、標記テーマで御講演いただきました。

氏は、上野国国境(現県境)は元禄国絵図によって最終的に定まったが、その過程で何があったのか、どのように変わったのかという視点で述べられました。また、開催中のテーマ展示2「二つの上野国絵図」に因んで、寛文・元禄の国絵図の比較を中心に、特に国境変更の問題に焦点を当てて考察されました。

当日は、県内外から100名を超える聴講者があり、講演後の質疑応答も活発に行われました。



佐藤孝之氏の講演(研修室)

ぐんま史料講座2 「上野国絵図を読む―国境問題を焦点に―」開催報告



## 出前講座

文書館では、職員がご注文に応じて出張講座を行う「出前なんでも講座」を受け付けています。平成29年度は、昨年度より1回多い、10回の講座を行いました。全て「古文書に親しむ」をテーマにした講座で、期日と主催団体は以下のとおりです。

- ・5月21日(日) 新田史研究会
- ・9月21日(木) 高崎市総合福祉センターシルバーセンター
- ・9月22日(金) 安中市松井田公民館
- ・11月25日(土) 孺恋郷土資料館
- ・12月10日(日) 前橋市粕川歴史民俗資料館
- ・1月13日(土) 天川地区地域づくり協議会

## 学校連携業務報告

### 前橋市立天川小学校との授業連携

平成29年10月31日、天川小学校3年生のうち34名が、「総合的な学習の時間」の授業として文書館に来館しました。

当館の見学や職員へのインタビューをおして、地域の歴史や文化施設・公共施設等に目を向け、地域の良さを見つめることをねらいとするものでした。

館内見学では、利用者に開放されている展示室や閲覧室(収蔵史料を見る場所)の他、普段は入ることのできない書庫内や地下の機械室、整理室などを見学してもらいました。建物の外から見たのでは分からなかった地下の存在や、カードキーで開く扉、電動で動く書架など、当館の設備に驚いていた児童の様子がうかがえました。

また、当館がどのような仕事を行っているかを説明するため、収蔵史料の複製物にも触れてもらいました。史料は、昔のすごろくや江戸時代の天川村の絵図、大名行列図、明治期の教科書(道徳・理科・算数)などです。これらは、児童に当館や地域の歴史に興味をもってもらおうと、小学生にもわかりやすい史料として選出したものです。児童たちは、明治、大正時代のすごろくの、右から左へ横書きされている字に驚いたり、天川村の絵図内で現在の学校の位置を探したり、楽しそうに史料に触れていました。昔の教科書の記述に、興味津々の児童も見られました。

学校連携では、授業のねらいや児童の実態などについて、学校側との共通理解

や調整が大変重要と考えます。今回の連携においても、天川小学校の先生と事前に細かな打合せが行えたことが、効果的な学習活動に繋がったと感じています。今後も、学校連携を行う際には、よりよい活動となるよう、学校との協力体制の構築に力を注ぎたいと考えております。

### 全史料協全国大会(相模原市)参加

平成29年11月9日から10日にかけて、神奈川県相模原市において開催された、「第43回全史料協全国(神奈川県相模原)大会」及び研修会に参加しました。

全史料協と相模原市共催で開催されたこの大会は、「公文書館法30年」今、問われる公文書管理」をテーマとし、全国から機関会員や個人会員が一堂に会して盛会のうちに幕を閉じました。当館職員は、まず最初に、相模原市公文書館の見学を行いました。

相模原市公文書館は、相模原市緑区に所在する、城山総合事務所第2別館に開設され、閲覧室は旧城山町議会の議場を再利用するかたちで設けられており、必ずしも新たな庁舎を必要としない、公文書館設置の一つの方法ではないかと感じましたと心得ます。

また、書庫については、地下書庫のほか、民間の倉庫も活用し、歴史的公文書

の保存も行っているそうです。

9日午後からは、会場を「杜のホールはしもと」に移し、4会場に分けてそれぞれ研修会が開催され、主に公文書管理に関する研修会を受講しました。

10日は、「調査・研究委員会報告」や「大会テーマ研究会」に参加し、公文書管理の現状や課題など様々なテーマについて発表が行われました。

特に、「公文書館法30年座談会」では、コメントーターの方たちの熱のこもった御意見を拝聴し、それぞれのコメントーターの方々の公文書に対する思いが相違している点について興味深く伺うことができました。

当館は平成29年度で開館35周年を迎え、公文書及び古文書合計78万点に及ぶ収蔵量を誇っております。

公文書館法が施行されてから30年が経過する中で、住民の公文書に対する関心が高まってきている現在、当館の将来像についてしっかりとした目標を立て、着実に推進していかなくてはなりません。

当館では、平成26年度に「群馬県立文書館の今後の方針と取組」を策定し、平成30年度には見直しの時期がやってきます。現在「県民に開かれた文書館を目指す」を目標に日々館の運営に取り組んでおります。また、ウェブページの充実

やフェイスブックによる情報発信など、新たな情報技術を駆使し、利用率向上を目指す取組も進めているところです。

こうした取組を進める上で、全史料協のような全国組織において、見識を深めることや情報収集することは重要であります。今後も、全国の公文書館の動向を注視しながら、当館の運営に当たっていかなくてはならないと感じました。



## 新たに収集した 古文書

◆沼田市西倉内町・加藤史夫家文書（寄託）

沼田藩士を先祖にもつ加藤家に伝わった古文書。近世の版本・筆写本が大半を占めます。彩色された絵図類もありま  
す。約810点。

◆藤岡市保美・高橋辰巳家文書（寄贈）  
近世の緑柱郡保美村の名主関係文書  
207点。同家文書（請求番号P8109）の第1次追加寄託。その後、前回の寄託分も含めて寄贈されました（総計452点）。

## 新たに公開した 古文書

●沼田市屋形原町・黒岩英夫家文書（請求番号P8311）

今回の第7次公開分は、4879点です。今回の閲覧開始により、閲覧総点数14256点に上る文書群の整理・点検作業が完了しました。なお、公開後、同家文書は本県へ寄贈されました。

伝存地の、利根郡屋形原村（現沼田市屋形原町）の村高は「寛文郷帳」で297石余、「元禄郷帳」以降571石余。寛文（かんぶん）2（1662）年の真田氏検地では村高1381石余とされ、真田氏改易後の貞享（じょうきょう）三（1686）年の酒井氏検地で571石余に戻りました。幕末は糸井村寄場組合に属し、家数146であったといえます。

黒岩家は昭和30年代まで代々黒岩佐太夫を襲名し、その名前の記された資料が多く伝存しています。以前の公開開始分には、前橋本町の勝山儀左衛門から送

られた年始挨拶状もあり（文書番号4952）、勝山家は前橋町年寄を務めており、黒岩家の家格が窺われます。

今回の公開開始分には数量は少ないものの村政資料として川田村長等を歴任した頃の役場関係文書があります。家政資料の中心は借用証文、暦、教科書、書簡類です。中には昭和20年代の検定教科書や“神農感応丸”等の薬の効能書もあります。



番号10548-1「国語読本 尋常小学校用」明治33年。ぐっすり眠り込んだウサギ（右下）が左頁でカメををにらむ表情も面白い。

## 新たに収集した 公文書

管理受任等 平成28年度に管理委任、引継

により県の各機関から受け入れた文書は、961冊でした。

（詳細は表1のとおり）

収集 平成28年度の文書整理において県庁各所属が廃棄した文書資料の中から、文書館が歴史資料として収集したものは2073冊でした。

（詳細は表2のとおり。なお、管理委任解除とは、保存期間が満了し、管理委任を解除された文書から収集したもの）

平成27年度の状況

・管理受任等 808冊  
・収集 1809冊

表1 平成28年度管理受任文書の課室別冊数

課室名	冊数	課室名	冊数	課室名	冊数
学事法制課	74	薬務課	8	工業振興課	18
消防保安課	58	廃棄物・リサイクル課	70	労働政策課	29
総務事務センター	130	自然環境課	3	産業人材育成課	9
健康福祉課	11	林政課	6	道路管理課	228
医務課	27	森林保全課	9	都市計画課	122
介護高齢課	44	技術支援課	2	会計課	20
保健予防課	36	畜産課	27	合計	961
障害政策課	26	商政課	4		

表2 平成28年度収集文書の部局別冊数

部局名	冊数	部局名	冊数
総務部	128	県土整備部	403
企画部	108	会計局	11
生活文化スポーツ部	45	議会事務局	60
こども未来部	18	人事委員会事務局	2
健康福祉部	137	教育委員会事務局	97
環境森林部	157	管理委任解除	676
農政部	132		
産業経済部	99	合計	2,073

## 新たに公開した 公文書

当館では、業務で使われなくなり、文書整理で廃棄された県庁各課の書類（公文書）の中から、将来、活用されるところと思われるものについて収集し、管理のためのラベルを貼ったり、それらの目録を作成したりして保存しています。

そして、内容を点検し、公開して差し支えない文書については、その文書を作成した原課（或いは、現在、その文書の業務を担当している課室）と協議し、承認が得られたものについて、公開しています。

今回、新たに公開した公文書は、昭和41～45年に作成。收受し完了された知事部局の文書で、平成26年度以前に収集したものです。

### 今回、公開した文書の例

受入記号	文書番号	所属年(和暦)	表題	内容
A0181B00	87	昭和43年	明治百年記念映画編	
A0181B00	153	昭和42年	全国火災予防ポスター編	昭和31年～昭和42年 群馬県消防協会
A0181B00	160	昭和41年	浅間山火山情報	1冊 昭和40年～昭和41年
A0113B00	153	昭和45年	太田大泉飛行場跡地	昭和44年・昭和45年、跡地利用に関する今後の事務手続き等
A0184B00	263	昭和43年	高崎管内集中豪雨による被害状況	昭和43年8月
A0186B00	255	昭和42年	渡良瀬監査	昭和35年～昭和42年
A0181B00	732	昭和44年	ガン・カモ・ハクチョウ類の生息調査簿	
A0105B00	927	昭和41年	26号台風災害状況写真集	昭和41年9月25日
A0181B00	186	昭和42年	長野原線電化開通式	総務部広報文書課
A0184B00	227	昭和45年	赤字バス対策	
A0185B00	58	昭和45年	東北道関係綴り No.3	昭和44年～昭和45年7月
A0184B00	225	昭和44年	上武建設期成同盟会綴	昭和41年～昭和44年
A0188B00	164	昭和45年	開越自動車道 No.1	

### <一口メモ>

当館の公文書の受入記号の仕組み

受入記号の例 **A 01 81 B 0M**

A →文書の種類（公文書）

01→収集先

(01:知事部局,03:議会,10:教育委員会 等)

81→収集年度（1981年）

B →収集方法（B:収集、A:管理委任）

0M→その他（M:明治、T:大正 等）

## 整理室 ～資料整理の現場から～

文書館は、おもに紙素材の資料を保存・利用する施設です。そのため、保存と利用という業務の両輪をバランス良く保たなければなりません。施設内も来館者が利用するためのスペースと保存のスペースに分かれていて、来館される皆さんは保存スペースに入ることはできません。

紙資料の保存は温湿度や虫の防除などに注意すれば大丈夫と思われるかもしれませんが、実はとても奥が深いのです。古文書や行政文書に使用されてきた紙素材は、時代によって多種多様なものがあります。それぞれの素材について知り、適切な処置をしなければ、資料の劣化は進み、利用できなくなってしまうことさえあります。

昨今の温暖化や印刷技術、記録素材の発展など、環境や科学分野への配慮も必要です。長い時をかけ、多くの人びとが工夫して護ってきた古文書や、現在も日々作成されている行政文書を次世代に引き継ぐことも文書館の重要な業務なのです。

本年は明治150年の年にあたります。当館が所蔵する国指定重要文化財「群馬県行政文書」は、明治時代から地方自治法（昭和22年4月公布）以前における群馬県の姿を現在に伝える貴重な資料です。資料保存の業務は表舞台にできることはありませんが、当時の文書からは、県職員が文書を「永年保存」するために、いろいろな工夫をしていたことも見て取れます。これらの

思いを引き継ぎ、現在、当館で行っている資料保存の一端を、公文書の補修を例に紹介します。

県庁から収集した文書は、一点ごとに背番号が付けられ、登録から公開までの一連の作業、プログラムに組み込まれます。作業は大きく分けると登録・補修・公開の順序で行われ、それぞれの担当が行っています。常に業務の関連性を認識し、連携することを心掛けています。

公開に向けての作業は原則として、年代の古い文書から順番に行い、現在は昭和30年代から40年代の歴史的な文書が対象です。このころの文書は紙・記録素材ともに急速に近代化した時期で、劣化現象が最も著しくみられます。たとえば、こんにやく版や青焼き図面、湿式コピーなどは文字が判読できなくなっていたり、セロハンテープやホットキスなどの事務用品による汚損もあります。当館でも以前は代替物を作成したりしていましたが、予算や人員の削減などにより、現在はできない状況にあります。そのため、対象の文書の状態を一点ごとに詳細に記録し、救急医療現場で行われているトリアージのように劣化の度合いを判定し、緊急性のあるものを優先して手直し、そのほかは金属類の除去や綴じ紐の交換など、最低限の応急処置が中心です。具体的な劣化の症状や処置の方法については、改めて紹介したいと思います。



## 閲覧室かわら版 くその4

閲覧室では、当館で開催した「古文書入門講座」「長期古文書講座」のテキストのコピーを販売しています。

テキストに使用している古文書は当館に収蔵しているものから選んでおり、語句の解説

や釈文(くずし字を現代の表記に直してあるもの)、読み下し文が付いています。

「古文書入門講座」は、初めて古文書を読む方に向けたもので、「長期古文書講座」は解説の経験がある方を対象とした内容となっており、過去の講座のテキスト

テキストの種類			テキストの種類				
	枚数	代金		枚数	代金		
平成23年度	古文書入門講座	43枚	860円	平成27年度	古文書入門講座	35枚	700円
	長期古文書講座	68枚	1,360円		長期古文書講座	114枚	2,280円
平成24年度	古文書入門講座	50枚	1,000円	平成28年度	古文書入門講座	54枚	1,080円
	長期古文書講座	87枚	1,740円		長期古文書講座	105枚	2,100円
平成25年度	古文書入門講座	55枚	1,100円	平成29年度	古文書入門講座	58枚	1,160円
	長期古文書講座	108枚	2,160円		長期古文書講座	110枚	2,200円
平成26年度	古文書入門講座	67枚	1,340円				
	長期古文書講座	113枚	2,260円				

更に学習を続ける受講経験者の方や、独学で習得しようとする方にも活用していただいています。

テキストの購入の際は、利用券の提示と「文書複写許可申請書」の記入が必要になりますので、閲覧室の職員にお声がけ下さい。(文書館を初めて利用する方は利用券を作るため、運転免許証などの身分証明書をお持ち下さい。)

また、1枚につき200円のコピー代がかり、テキストの枚数により代金が異なります。表でご確認下さい。

### 「新規公開文書展2018」の案内

当館の展示室にて、平成29年度に新規に公開した公文書・古文書から、特徴的な史料の一部を展示しています。開催期間は、3月10日(土)～7月8日(日)までです。

新規に公開となった公文書は、昭和36年～40年に、県庁の各部課や議会事務局、教育委員会などで作成・收受されたものです。その中から、昭和39年東京オリンピックの際に行われた「オリンピック前年祭」に関する史料や、昭和42年の「第22回国体の誘致」に関する史料、関越自動車道の建設に関する史料を展示しています。これらの史料には、PR用の配

布物等も綴じ込まれており、当時の取り組みの様子が伝わってきます。

古文書の展示では、県内四家(前橋市・北爪文家、伊勢崎市・久保田壽一家、沼田市・黒岩英夫家、藤岡市・小林小五郎家)の特徴的な文書や絵図を選び、展示しています。

藤岡市・小林小五郎家文書では、天保9年に幕府巡見使の来訪に際して作成された、緑埜郡中大塚村絵図を展示しており、当時の集落の様子が見取れます。今回展示している史料及び、新規に公開となった史料は、当館2階「閲覧室」で実物を閲覧することができます。ぜひ一度、お立ち寄りください。



## 今後の行事予定

### ★展示

● 新規公開文書展2018

前期…3月10日(土)～5月6日(日)  
後期…5月12日(土)～7月8日(日)

※春季特別整理休館をはさみ前期と後期で一部展示史料の入替えを行います。

● テーマ展示1「幕末・明治維新期の上州」(予定)

7月21日(土)～11月4日(日)

★ 講座  
● 古文書入門講座(土曜日…全5回)  
5月26日～6月23日

午前10時～正午、定員60人(未受講者優先)、テキスト代1000円

※申込期間は4月16日(月)～5月8日(火) 必着

● 長期古文書講座(土曜日…全11回)  
9月1日～11月24日(予定)

● 第1回ぐんま史料講座  
10月27日(土)(予定)

※詳細は文書館HPをご覧ください

### 休館日



発行／群馬県立文書館

<http://www.archives.pref.gunma.jp>

題字／岡庭征人書